佐賀市立
南川副小学校

特別支援教育だより

１１月号

南小ホームページ QR コード

困り感をもつ児童の具体的な支援について～その①（知・肢体）～

今回の特別支援教育だよりでは、困り感をもつ児童の具体的な支援について、本校のひまわり学級・たんぽぽ学級での支援を紹介します。

ひまわり学級では、自分のペースで学習を進め、ゆっくり学んでいます。また、学校での学びを実生活で生かすことができるよう、自立活動でお金の学習をしたり、校外学習に出かけたりしています。

たんぽぽ学級では、指先を使った作業や、室内でできる運動に取り組み、身体の動かし方を学んでいます。また、ひまわり学級と同じように、学校で学習したことを実生活へ生かすことができるよう、校外学習へも出かけます。

【ひまわり学級での学習】

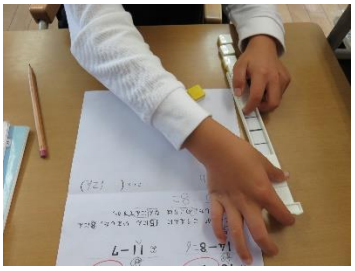
１年生の最初は、お手本を見ながら別の紙に文字を書き写すことが難しいので、一枚のプリントの中にお手本と練習の枠をつくり、すぐ隣を見て文字を書くことができるように工夫しています。ひまわり学級ではそのプリントを継続して使い学習を進めています。また、タブレットを使って筆順を確かめ、繰り返し楽しく学習に取り組んでいます。

【校内での取り組みや校外学習】

今年度はトウモロコシを育てて収穫し、ポップコーンとして調理・販売まで自分たちで行いました。また、校外学習ではバスに乗ってバルーンミュージアムと佐賀駅へ行きました。いろいろな経験を通して、人との関わり方を学習しています。

【たんぽぽ学級での学習】

学習の中でも指先を使う機会をできるだけ多くとるようにしています。カタカナのブロック並べ、算数のブロック操作、計算カードの練習、タブレット操作などを通して、各教科の知識を高めると共に、指先での作業に慣れるようにしています。



【教室環境】

トランポリンで体幹と足の力を鍛えたり、スポンジ製の浮き棒を繋げて橋のように渡り、バランス力を高めたりしています。体が疲れているときにはマットやクッションの上で全身の力を抜き、くつろぐことができるようにしています。

卒業後のことについては、次回「困り感をもつ児童の具体的な支援について～その②（自・情）」とあわせて掲載します。お子さんのことで何か気になることがあれば、いつでもご相談ください。一緒に考えていきましょう。